

## 31【P2】I -299

マカ(*Lepidium meyenii* Walp)の抗アレルギー活性

○松本 雄大<sup>1</sup>, 根本 明日香<sup>2</sup>, 諏訪 芳秀<sup>2</sup>, 梅田 亜弥<sup>3</sup>, 加藤 恵<sup>1</sup>(<sup>1</sup>サントリー(株) ワイン&スピリッツ商品開発研,<sup>2</sup>サントリー(株) 品質部,<sup>3</sup>サントリー(株) 健康科学研)

### 【目的】

マカ (*Lepidium meyenii* Walp) は南米ペルー原産のアブラナ科植物であり、古来インカ帝国時代より滋養強壮効果が知られている。最近では抗炎症作用<sup>1)</sup>も報告された。

本研究では、マカの抗アレルギー作用を肥満細胞からのヒスタミン遊離抑制を指標として検討した。

### 【方法および結果】

ラット腹腔肥満細胞を用い、Compound48/80 で刺激して放出されるヒスタミンの遊離量に対する抑制作用を抗アレルギー効果の指標として検討した。

その結果、ペルー産マカ水抽出物に強いヒスタミン遊離抑制作用があることが明らかとなった。その活性は、抗アレルギー薬であるクロモグリク酸の約10倍の強さに相当した。

次に、エタノール濃度を段階的に変化させたアルコール/水溶液で乾燥マカの加温抽出液を得て、同様にしてヒスタミン遊離抑制活性を測定した。エタノール濃度が高い抽出液ほどヒスタミン遊離抑制効果が高く、マカに含まれる同活性成分は疎水性であると推定された。

1) 鈴木郁功 他, 医学と生物学, 145(6), 81 (2002)